

令和8年度 静岡文化芸術大学 研究成果発表会

10/29^{T H U} 14:40 ~ 18:10
令和8年
静岡文化芸術大学 講堂
参加無料(入退出自由)

1

国際文化学科

二本松 康宏 教授

北遠地域に伝わる祭祀芸能の総合的研究

北遠地域に伝承される祭祀芸能群は学術的価値においても国内外から高い関心を集めている。しかし、芸能は神事の主要部であり、そこに使用される面は御神体そのものとして扱われている。そのために従来は調査自体さえ困難とされてきた。本研究では、すでに廃絶した祭祀をテーマとすることで、その調査・研究に取り組むことが可能となった。そうした祭祀芸能をめぐって多角的な視点と手法による総合的な調査・研究を進めてきた。

2

国際文化学科

青木 健 教授

ユーラシア文明の交錯と歴史文化資源を活用した地域の観光開発—福建省・広東省に於ける「海のシルクロード」を事例に

我々の作業仮説は、中華イスラーム文化融合の3段階理論である。
第1段階7~10世紀陝西省・甘肅省、第2段階19~20世紀広東省・福建省、第3段階21世紀浙江省義烏。この中で、第1段階と第2段階については、2020年度~2024年度の調査で十分な知見を得た。2025年度は、この第3段階の「特徴」に関して調査した。

3

文化政策学科

田中 啓 教授

本学における実践力育成をめざした教育のあり方についての研究

大学に対して実践力を備えた人材の育成に対する要請が高まっていることを踏まえ、課題解決型教育やデータ活用型教育をはじめとして、実践力の育成をめざした他大学の動向を把握した上で、本学の特性に合った実践力育成教育のあり方や文化政策学科のリサーチ&プランニング系科目のバージョンアップの方向性を構想する。本研究の実施にあたり、国内の大学や高校を訪問調査するほか、文化政策学科の卒業生を対象とした調査を行う。

4

芸術文化学科

梅田 英春 教授

公立大学間の研究・教育・大学運営に関する協定の可能性に関する研究~沖縄県立芸術大学を事例にして

本研究は、これまで本学において積極的に推進されてこなかった公立大学との研究・教育・大学運営の三つの側面に関する具体的な連携協定のあり方を研究テーマとし、すでに公立大学として積極的に連携協定に取り組む名桜大学の事例を調査し、その結果を踏まえて、地域文化・芸術と深く結びついた教育を行う沖縄県立芸術大学との研究・教育の両面の可能性や問題点を見出し、協定実現に向けての方法を模索した。

5

デザイン学科

ジェローム・ブルベス 教授

映像生成AIの可能性及び限界

デザインを学ぶ学生達が生成AI(動画生成ツール)を用い短編映像を制作する2件の実験を行った。AIツールとどう向き合い進めていくのか、教育上どのような障害に直面するかを観察した。本研究は、その障害の多くが一時的なものではなく構造的なものであり、これらのモデルが学習時にも生成時にもテキストによる媒介を通じてのみ動作することに起因すると論じる。

6

デザイン学科

荒川 朋子 准教授

遠州伝統産業織物の織設計図解読および推定復元による、技術継承方法と発展的デザインの研究

遠州地域にある織物工場の創意工夫から生まれた稀有な特色ある布は、長年培われた知の結晶であり世界のアパレル業界からも信頼され遠州を代表する知的財産と考えられる。ところが近年、工場閉鎖と共に知財としての資料的価値があるにも関わらず、その貴重な伝統産業織物の織設計図が破棄される事態がおこっている。今後後世に残されるべき遠州地域の知財として資料を記録し、未来へ遠州地域文化・芸術を繋いでいく方法を考察する。

司会・進行 / 奥中康人 文化・芸術研究センター長

オンラインで配信予定

※詳しくは大学HPをご覧ください

<https://www.suac.ac.jp/>



申し込み等は必要ありません。どなたでもご参加いただけます(入退出自由)。



a | c | c | e | s | s

[徒歩] JR浜松駅から徒歩15分

[バス] 浜松駅バスターミナル

◆10番のりば遠鉄バス「文化芸術大学」下車

※駐車場がありませんので、車での来場は
ご遠慮ください。



(主催) 静岡文化芸術大学 文化・芸術研究センター

お問合せ

〒430-8533 浜松市中央区中央2-1-1 静岡文化芸術大学 研究・連携推進室

[TEL] 053-457-6105

[mail] kenkyu@suac.ac.jp

